

## 第2回 賀茂地域豪雨災害減災協議会 議事要旨

日時：平成30年2月16日(金) 15:00～16:30

会場：下田市民文化会館 大会議室

出席者：構成員 下田市建設課長補佐（代理出席）、東伊豆町防災課長（代理出席）、河津町長、南伊豆町長、松崎町総務課長（代理出席）、西伊豆町長、気象庁静岡地方気象台長、国土交通省中部地方整備局河川部地域河川課長、静岡県危機管理部危機対策課長（代理出席）、静岡県経営管理部賀茂振興局参事兼危機管理課長（代理出席）、静岡県交通基盤部河川砂防局長、静岡県交通基盤部下田土木事務所長、事務局 静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課、静岡県交通基盤部河川砂防局土木防災課、静岡県下田土木事務所、静岡県危機管理部危機対策課、静岡県経営管理部賀茂振興局

### 1. 挨拶

### 2. 議事

- (1) 賀茂地域豪雨災害減災協議会規約の改正
- (2) これまでの経過及び決定事項
- (3) 賀茂地域の減災に係る取組方針（案）
- (4) 情報提供
- (5) 今後のスケジュール

### 3. 議事概要

- (1) 賀茂地域豪雨災害減災協議会規約の改正について説明  
法定協議会への移行や軽微な修正に伴う規約改正（案）を説明。規約改正（案）について、当日付で施行することの承認を得た。
- (2) これまでの経過及び決定事項について説明  
これまでの経緯及び決定事項を説明し、共有を図った。
- (3) 賀茂地域の減災に係る取組方針（案）について説明  
取組方針（案）を本協議会において今後5年間の取組方針とすることについて承認を得て決定した。
- (4) 情報提供  
静岡地方気象台から、地域における気象防災支援の強化について説明  
中部地方整備局から、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）について説明

(5) 今後のスケジュールについて説明

【意見交換における主な内容】

[協議会構成員]

・水位計がなく、周知河川でもない状況であり、危機管理型水位計の設置候補となっているが、設置されるまでの防災対策について検討をお願いしたい。また、監視カメラが設置されているが、夜間になると全く水面が見えないため、その対応をお願いしたい。併せて、局地的豪雨に対応できるような雨量計の設置をお願いしたい。

[協議会構成員]

・避難命令発令のタイミングが難しいため、関係機関との連携が非常に重要と感じる。これまでの経験として、急峻な地区であり、降雨が短時間で流下するので、避難命令発令のタイミングについて改めて検討していく。また、職員が不足しており、今後思うような取組ができない懸念がある。

[協議会構成員]

・目標の達成に向けた取組のうち県の取組についてもできる限り協力するが、基本的には県にご尽力いただきたい。住民への周知、防災訓練、要配慮者利用施設の調査把握、防災組織体制確立のためのタイムラインの作成及び導入にむけた取組に注力していく。

[協議会構成員]

・平成 29 年 4 月の豪雨、同年 10 月の台風 21 号、22 号によって豪雨による被害が発生した。これらは本川へ流入する小規模河川が氾濫したことに伴う土砂堆積等によるものであった。平野部での河川氾濫だけでなく、山間部の支川に対する対策の一環として、監視カメラの設置をご検討いただきたい。河川の土砂・樹木の除去についても引き続き検討していただきたい。また、要配慮者施設の把握について、市町だけでは対応できない点もあるので、県からもバックアップをお願いしたい。

[協議会構成員]

・河川については堆積土が河川に悪さをすることがあるので、今後も引き続き対応をお願いしたい。また、河川整備を行う際に樋門を設置することがあるが、場所によっては樋門があることによって、支川に沿って冠水が発生することもあるので、そういった観点もふまえた河川整備をお願いしたい。

[協議会構成員]

・来年度、防災メールの配信を開始するので、ご協力をお願いしたい。平成 30・31 年度の 2 ヶ年でタイムラインの導入検討を進めるため、県からも費用的な支援を頂けるとありがたい。

防災教育について中学生を対象に実施したい場合、県から人的支援等を頂けるのだろうか。

[事務局回答]

対応するのでご連絡いただきたい。

[協議会構成員]

・リエゾン派遣について、県内各市町にアンケート調査を実施したところ、リエゾンに期待する事項は市町によってばらつきがあった。この結果を踏まえ、今後制度の調整をしていきたい。また、来年度からテレビ会議のシステムを新たに導入する予定である。県庁と各市町等の担当者をグルーピング（賀茂地域1市5町+県庁+危機管理部など）し、その中での会議等もできるシステムを構築する予定であるため、近隣市町と連携した広域避難の検討等にも利用してほしい。市町から FUJISAN システムが使いづらいとの意見があるので、改修して使いやすいものにしたいと考えている。

[協議会構成員]

・危機管理型水位計については、国土交通省にて安価な水位計が開発されまもなく実用化される予定である。設置費用については、現在予算要望している状況であり、なるべく早く設置ができるよう早期発注する予定である。また、今回設置する危機管理型水位計は安価だけでなく、従来の水位計と水位の表示方法が異なり、サイポスレーダーにそのままデータを載せることはできないので、当面は別のシステムにて公表する予定であるが、オープンデータとして誰もが使用できるものにしていくため、今後も減災協議会で報告していく。

以 上